

新宮山彦ぐるーぷ第1871回―3

## 連休中の行仙宿への来宿舎の対応と浦向道分岐付近の

### 補給路と笠捨山撤き道(旧通信道)修復改修作業

◇実施日：平成28年5月04日(水)～06日(金)

5月04日(水) 快晴

◇参加者：川島 功。 1名。

当初、3日～5日に行仙宿に入宿予定であったが、雨の予報と単独では作業が出来ないので、天気回復の5日以降に変更したが、低気圧は3日夕方から4日早朝に通過し、小屋番が居ないので湯川氏に5日に生熊氏と入宿を要請し、家庭菜園作業を午前中に済ませ午後から入宿した。

奥駈道を縦走していた登山者にとっては、夜中に雨が降り、雨の中の歩行が免れラッキーな事である。

ガソリン5リットル・ビール半箱と食料を担ぎ、稜線の佐田ノ辻に登ると風が強い。宿泊者が既に3人居て、水場に行つて貰う。来宿者9名と先般持参した太平洋(4合瓶)でストローブを囲み歓談し終えた頃に、トレラン4名が到着し来宿者13名となる。

今年も誕生日は行仙宿で過ぎ、後期高齢者の年令になった。消灯21時、管理棟で就寝。

行動タイム

鶉殿 12:00→13:30 行仙登山口 13:40→14:20 行仙宿。

5月05日(木) 快晴、朝の外気温11℃

◇参加者：川島 功、生熊敏男、湯川一郎、青木氏勧誘登山者3名(植田英豊、平見芳和、吉田克司)  
17時前着；青木宏充、山口泰宏。 8名。

起床5時半、朝食後7時より補給路補修の道具、木杭・鋼管パイプ杭を用意する。その後、佐田ノ辻に積まれていた薪で大きな割木は小割りして薪小屋に運ぶ。資材・道具を担いで浦向分岐で荷を置き、生熊・湯川氏を迎えに登山口へ下山。(以上 川島記)

5日の7時前に、生熊さんと私は新宮の沖崎宅で合流、宮井大橋経由で行仙岳の補給路登山口に8時17分に到着すると、川島さんが時間を見計らい、新設されたモノレールで出迎えに来てくれた。たいした荷物ではないが、モノレールの終点である浦向分岐近くまで荷を背負って運ぶ必要がなくなり大変楽になった。

本日の作業予定はモノレール終点をプラットホーム化するための作業と補給路の補修とのこと。一旦、生熊さんと私は行仙宿に荷物を運び入れ、鋼管杭を待ちモノレール終点に9時40分に戻り作業についた。

プラットホーム化の土留め資材は、枕木の廃材7本・桟木3本(根木氏調達)と高性能鋼管杭「くい丸」8本(電源開発株橋本流通事業所寄付)を使用した。この「くい丸」は、昨年11月28日にホテル浦島で開催された「創立40周年・持経宿改築竣工・玉岡相談役の緑綬褒章受章祝賀会」において、青木さんが同室の電源開発株さんに要請した肝いりの杭であると伺った。



モノレール終点補修前 プラットホーム高さ調整 終点・3段の土留め

まずは、プラットホームの土台作りのため、水場上の資材置場から枕木・木（10本）と補給路登山口脇に流れ落ちた砂利や土を土嚢袋（12袋）に入れ、モノレールで3回往復11時30分に午前中の作業を終了し、昼食をとるために行仙宿に戻った。

その後、前日、持経宿に宿泊した登山者3名の一行が到着し、行仙宿泊にすることのであったので、昼食後、水補給に水場まで往復していただいた。

午後からの作業のため、第2ベンチまで降りると、3名の若者が登ってきた。川島さんには青木さんからすでに情報が入っているらしく、彼らは青木さんに勧められ行仙宿に来たとのこと。早速、川島さんが彼らに、第2ベンチに荷を置き、作業の手伝いを要請される。

1名は川島さん・私と一緒に土嚢袋へ砂利・土を入れ運搬する作業、2名は生熊さん指導のもと、浦向分岐付近の補給路補修（7段設置）にあたった。彼らには約1時間余り作業を手伝ってもらい、私たち3名も15時05分に作業を終了した。



生熊さんから杭打を教わる若者

補給路補修作業者

猪・熊肉ソテーとふく鍋

行仙宿に戻り宿泊の登山者と歓談、17時頃、前日に持経宿で登山客対応をされた青木さんが山口さんとともに夕食の材料を持って補給路から登って来られた。

夕食は管理棟にて、青木さん勧誘の4名（和歌山市3名・埼玉

県1名）を含めた9名にて、青木さんが調達された「ウリ坊と熊肉のソテー、ふく鍋及び埼玉県の望月徹さんが釣られた「鱒の燻製」等を頂きながら、来宿者は21時消灯後、管理棟で23時までの大宴会となった。

#### 行動タイム

新宮（沖崎宅）6:55↓8:17補給路登山口8:30（モノレール利用）  
↓9:10行仙宿9:20↓9:40モノレール終点作業11:30↓12:00行仙宿  
13:00↓13:15モノレール終点・補給路作業15:05↓15:30行仙宿。

#### 5月06日（金）曇り後小雨

参加者；川島 功、生熊敏男、青木宏充、山口泰宏、

湯川一郎。

5名。

5時40分に起床。縦走の登山客が出発後、我々も朝食を取る。朝食は、缶入りオレンジソフトパン（電源開発(株)寄贈品）と青木さん調理のベーコンエッグをいただく。

川島・生熊・山口さんと私は7時20分に、くい丸12m4本・12m4本を持って前回作業を終えた地点へと出発した。

23号鉄塔への分岐で小休止していると、青木さんが追いついて来た。

8時35分に前回作業を終えた地点に到着、行仙宿に戻りつつ作業を開始した。



改修前



改修前



改修後



栈木改修後の土寄せ



改修作業中



鋼管杭打込み作業



栈木打込み後の土寄せ



改修作業前



改修後



浮いた栈木・倒れた栈木改修作業中



改修後



改修作業中



栈木打込み後



土寄せ

川島・山口さんと私の3名が、斜面に流された栈木・杭、を拾い上げ、大きく倒伏した栈木・杭は一旦抜く等しながら大ハンマーで打ち直し。改修修復した道には、生熊さんと青木さんが土入れ等の道慣らしを行った。

修復改修作業は、11時30分まで行い、昼食をとるため行仙宿へ戻った。

旧通信道の大きな改修箇所としては、道が消失した高捲部分が残っているが、本日、5名で作業を行った結果、24号鉄塔迄約10分の地点まで修復・改修を行うことが出来た。

行仙宿に戻る間に、雨がポツポツと降り出した。本日、行仙宿泊の山口さんと青木さんは、雨具着用しての午後の作業は取りやめ、明日雨があがった後、作業を行うとのこと。

2日～3日には、行仙宿側の分岐からN023鉄塔分岐を過ぎた崩落箇所を大きく迂回する地点過ぎ迄修復改修済みのため、旧通信道(鉄塔巡視路)は、約80%修復改修されたことになる。



改修前



改修後



栈木打込み後の道ならし

昼食は、カップラーメンや持参のパン等で簡単に済ませ、雨が本降りなる前に下山することとし、川島さん・生熊さんと私は13時15分に行仙宿を発った。

モノレールは、水場上の資材置場前の駐機場まで戻し、13時55分に補給路登山口で川島車と湯川車に分乗し帰路についた。

不動トンネルを越えた国道169号線で川島さんと別れ、生熊さんと私は新宮の沖崎宅へ15時20分に到着。作業の進捗状況と次回荷上げ品等を報告し解散した。

### 行動タイム

行仙宿 7:20→8:35 旧通信道作業 11:30→12:30 行仙宿 13:15→13:30  
モノレール駐機場 13:40→13:50 補給路登山口 13:55→15:20  
新宮(沖崎宅)。(湯川記)